

令和 4 年度 医療救護所訓練実施結果について

旭丘中学校医療救護所訓練

- 1 実施日時
令和 4 年 11 月 20 日（日）9 時 00 分～12 時 15 分
- 2 訓練会場
旭丘中学校（多目的室・保健室・防災備蓄庫ほか）
- 3 新型コロナウイルス感染症対策
 - ・規模を縮小して実施。
 - ・参加者を 3 班に分け、相互に接触の機会を作らないよう配慮。
 - ・マスク、ニトリル手袋、フェイスシールドを全員着用し、実施した。
- 4 訓練内容
 - LINE WORKS デモンストレーション
 - 救護所ツアー
 - 医療救護所開設訓練
 - ア 参集要員の役割分担
 - イ 設営（机上）
 - 医療救護活動訓練
 - ア トリアージ
 - イ 重症者処置
 - ウ 搬送
- 5 参加者 61 名
 - 練馬区医師会 (4 名)
 - 練馬区歯科医師会 (5 名)
 - 練馬区薬剤師会 (5 名)
 - 東京都柔道整復師会練馬支部 (4 名)
 - 登録看護師 (2 名)
 - 避難拠点要員 (12 名)
 - 順天堂練馬病院 (5 名)
 - 避難拠点運営連絡会 (7 名)
 - 旭丘中学校 (1 名)
 - 区職員 (14 名)

6 主な意見

全体	<p>災害発生時に、医療救護所が様々な医療救護活動を行っているかを知れて良かった。</p> <p>少人数での訓練および多様な対応をすることとなったため、様々な発見があった。</p> <p>コロナ感染予防のため、開設訓練が机上のみであり、実体験が出来なかったのが残念だった。また、参加人数の関係もあるが、各職種の役割、連携もあまり体験出来なかったように思った。</p>
救護所ツアー	<p>実際に歩くことにより、医療救護所における被災者の動線等がわかった。小中学校は、救護活動には不向きな配置であるとも感じたが、実際の災害時は使えない教室も有ると考えると、臨機応変に対応する必要があると感じた。</p> <p>コロナ下という点を踏まえ、発熱の被災者を別部屋にする点はよいと思った。</p>
開設訓練 (役割分担)	<p>発災時、人員が足りない中で医療救護活動を実施することになると思われる。少人数で行えてよかった。</p> <p>訓練の際は、時間をかけて役割分担を行った。ただし、発災時は、人数も限られており直ちに決める必要がある。統括者のフォローとして、周りの人の経験の有無も発言したりするものよかったと思う。</p>
開設訓練 (設営)	<p>軽症者エリア、重傷者エリアともに狭さを感じ、動線がはっきりしなかったことが、設営に時間がかかった要因と思う。各医療救護所で、それぞれ異なる課題が生じると思われる。</p> <p>統括医である医師を中心としたチームで、各職種の班員の担当等の考えもよくわかった。</p>
医療救護活動訓練 (トリアージ)	<p>訓練によって徐々に早く出来るようになったが、実際は 30 秒で行なうのが望ましいとのことだったので、定期的に訓練する必要があると思った。</p> <p>3分以内のトリアージより、先ずは何を主観にするのかから始めて、訓練最後辺りに3分間のリミットを付けた方が良い。</p> <p>発災時、次々に来る被災者をスピーディにトリアー</p>

	<p>ジする中で、タグを赤か黒かの判断は非常に難しいということがある。経験が少なくトリアージに不安があると時間がかかってしまう。訓練と発災時では全く違う状況ではあるが、トリアージタグの使い方を含め、START法の理解をすることは必要である。</p>
<p>医療救護活動訓練 (重症者処置)</p>	<p>想像よりも医療資源があると思った。今回の処置室となった保健室は狭く、赤タグでも全員をすぐに処置できない環境であることが分かった。また初期段階では医師の数も少ないと考えられ、ほかの職種の協力は必要不可欠であると思った。</p> <p>判断の妥当性は一つではないと思うが、治療および搬送の優先順位、安定化治療の判断は、とても難しかった。</p> <p>いかに迅速に処置できるか、命を救うことになるかもよくわかった。</p>
<p>医療救護活動訓練 (搬送)</p>	<p>実際のストレッチャーを動かすのは初めてで良い経験になった。搬送するという判断をしても、実際にはとても人手がかかることが実感できたので良かった。</p> <p>担架への移乗の際、多職種の知識を用いた被災者への安全を考慮したアセスメントを行い訓練ができたことは、今後につながると思った。ストレッチャーについて、普段ほとんど使うことがないため、セッティングの仕方、搬送のポイントを知る事ができたのは良かった。</p>
<p>その他</p>	<p>災害時医療のレクチャーがあり、とても勉強になった。より多くの方に参加してもらえよう、案内していきたい。</p> <p>今回久々参加してみて、以前と比べ、どんどん具体的になっているのを実感した。LINE ワークス等の情報共有ツールも増設し、加えて実践を繰り返しながら、いざという時に協力しながら地域のために動けるように訓練しておく大切さを感じた。</p>

光が丘秋の陽小学校医療救護所訓練

- 1 実施日時
令和5年2月19日(日) 9時00分～12時00分
- 2 訓練会場
光が丘秋の陽小学校(学童クラブ・保健室・防災備蓄庫ほか)
- 3 新型コロナウイルス感染症対策
 - ・規模を縮小して実施。
 - ・参加者を3班に分け、相互に接触の機会を作らないよう配慮。
 - ・マスク、ニトリル手袋、フェイスシールドを全員着用し、実施した。
- 4 訓練内容
 - LINE WORKS デモンストレーション
 - 救護所ツアー
 - 医療救護所開設訓練
 - ア 参集要員の役割分担
 - イ 設営(机上)
 - 医療救護活動訓練
 - ア トリアージ
 - イ 重症者処置
 - ウ 搬送
- 5 参加者 68名
 - 練馬区医師会 (2名)
 - 練馬区歯科医師会 (5名)
 - 練馬区薬剤師会 (5名)
 - 東京都柔道整復師会練馬支部 (4名)
 - 登録看護師 (2名)
 - 避難拠点要員 (12名)
 - 練馬光が丘病院 (5名)
 - 避難拠点運営連絡会 (9名)
 - 光が丘地区連合協議会 (2名)
 - 光が丘秋の陽小学校 (1名)
 - 目黒区役所・目黒区薬剤師会 (5名)
 - 区職員 (16名)

6 主な意見

全体	<p>実際の発災時をイメージしており、よく考えられたプログラムだと感じた。</p> <p>班ごとではあったが、限られた参集したメンバーという想定での机上訓練等は、有事の際を想定した訓練でよかった。</p> <p>実際の医療救護所での訓練だったので、臨場感があり身が引き締まった。一方自分に自信がなくなった。</p>
救護所ツアー	<p>電気自動車の取り組みについて知らなかったので、練馬区が取り組んでいると聞いて驚いた。</p> <p>備蓄倉庫の中を確認できて良かった。発災時、備蓄している食糧等が枯渇した場合を考えると、その後の対応が気になった。</p>
開設訓練 (役割分担)	<p>統括医・班長の指示に従い、役割分担を行うことが重要。アクションカードを見るとそのエリアの役割がよく分かり良かった。</p> <p>発災直後の様な少人数での役割分担で、一人で複数の役割となり、発災時の招集の大切さを実感した。</p>
開設訓練 (設営)	<p>発災時、多数の被災者が押し寄せる状態が考えられるが、設営とその導線が大切となってくる。何度も訓練を重ね、スムーズに運べる様にしたい。</p> <p>医療救護所における導線やソーシャルディスタンスを考えると、どうしても無理な部分が見えて来る。学校内での医療救護所の設営に限界があるとも思った。</p>
医療救護活動訓練 (トリアージ)	<p>1次トリアージは、比較的シンプルだが、数年に1回の訓練だとそれでも戸惑ってしまう。少なくとも、年に1回は流れを確認しておくべきだと感じた。</p> <p>ファシリテーター(練馬光が丘病院のDMAT看護師)より1人30秒程度で行うように言われたが、できるかどうか自信がない。</p>
医療救護活動訓練	<p>多くの重傷者が来た際、その中で優先順位を付けて搬送させるかの判断は難しいと思った。あまり</p>

(重症者処置)	<p>に数が多い場合、カルテの記録の仕方等工夫しないといけないかもしれない。</p> <p>一番難しい役割と感じたが、医師の方のトリアージを見学する事でとても勉強になった。命に関わる判断を即時にする医師の力に感動した。</p>
医療救護活動訓練 (搬送)	<p>光が丘病院にすぐに搬送できるのは素晴らしいと思った。ただし、搬送には5～6人必要と思うので、医療職のみならず、区民に協力してもらう事も検討しないといけないかもしれない。</p> <p>担架の組み立てや搬送方法について、初めて体験させていただき勉強になった。一方、雨だったら搬送(校庭が導線)はどうするのかとも思った。</p>
その他	<p>医療救護所での訓練がないと、実際の現場で動くのは難しいため、今後も継続して医療救護所訓練に参加したい。</p> <p>医療救護所訓練は、繰り返し訓練すること大切。また、発災時には情報共有ツールであるLINE WORKSが重要と感じた。</p>